

講座名	ステップアップ講座「ニホンミツバチの不思議な生態」		
開催日時	2023年 4月 27日(木) 18時45分 ~ 20時45分		
開催場所	船橋市中央公民館 第8集会室	FIC参加者	16名

活動概要ニホンミツバチを飼って6年という関 隆夫氏に養蜂の話をついた。ニホンミツバチは、まだ解らないことやいろいろ工夫できることが多いとのことで面白さ満載な講座となった。

ニホンミツバチ社会の役割

- ・働きバチ：すべてが雌 卵から羽化まで19日。巣の中の仕事から外の危険も伴う仕事へと交代して過ごしていく。最初は掃除→幼虫の世話→巣作り→花蜜を蜂蜜に変える→花蜜・花粉集めなどである。施風はセイヨウミツバチと逆向きに行く。
- ・女王バチ：卵から羽化まで15日 ローヤルゼリーで育てられる。産卵を多い時は1日に自分の体重以上に行く。



- ・雄バチ：卵から羽化まで21日。無精卵から生まれる。春先の出現。全体のハチ数の3%ほど。交尾の他は何もしない。産卵が始まると、雄は餌をもらえず巣を追い出され死んでしまう。
- ・重箱式巣箱を使用：中には、7段位のハニカム構造の巣板をハチが設営。一定の強度を保ち 最も少ない材料で、できる限り広い巣を作ることができるのは正六角形だから。上向き13度 壁の厚み0.1mm ハチがこのようなことをどこで会得したのか、進化の過程で最適な方法を体得し利用している。蜜蝋を作り出すには蜜蝋の約7倍もの蜂蜜を必要とする。



分蜂 1群で女王は1匹のみである。群れを分ける時の新女王は王台で育てる。

- ・新女王バチに巣を譲って、旧女王バチは、飛んで出られるようダイエットをする。運動することを働きバチに促され、体重を25%位減らす。働きバチは逆に体重を50%増やす。
- ・ミツバチ会議（ダンスでコミュニケーション）○や8の字型に動き距離を表す。激しく身体を揺らして動いた向きで方向を表す。より良い場所は、強いダンスで示す。意見がまとまると同じ方向にダンスを行い、出発する。

- ・暑さとスミシ（巣をかじって壊す虫）対策にネットを使用
- ・常に綺麗にしておくとお大丈夫
- ・メントールの匂いでアカリダニの感染を防いでいる。
- ・いきなり刺さず、最初威嚇してから刺す。他のハチより穏やかである。



取り巻く現状…世界中でミツバチがたくさん死んでいる。

- ・温暖化…蜜蝋で巣は作られているので柔らかくなり落ちた。（熱殺蜂球でキロスズメバチに勝つ）
- ・農薬…ヘリコプターやドローンでまいている。ネオニコチノイド系農薬は微量でもハチは神経が攪乱し巣に戻れなくなる・オオスズメバチ侵入防止用に巣箱出入口へ金属設置
<活発な論議・質問が行われた。>
- ・糖度は低いので、人工的に糖度を上げて販売していることもある。
- ・始める時は、どうしたらよいか？飼っている人に分けてもらえるようお願いすることがお勧め（分蜂時に取り込む。女王が新巣に入ると他もついてくる。）山に巣箱を置いた場合は、10個中1個位にハチが入ってくれば良いとのこと。



今回から始めたアンケート結果では、「ニホンミツバチの巧妙な生態を知ることが出来て良かったです。種が生存する為に幾重にも仕掛けが有って生存が続いている事に驚きと感動を禁じ得ません。」「ニホンミツバチが農業を救う。」「飼いたくなかった。」のように好評を博しました。

FIC講師 関 隆夫